

講義名	コーチング論			授業形態	
担当教員	内田 遼介	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

本講義ではアスリートのコーチングに関わるトピックについて幅広く学ぶ。具体的には、スポーツ指導者に求められるコーチングの理念や哲学といったトピックから、実際のスポーツ指導場面において重要となるトレーニングの組み立て方、行動変容を促す指導方法など実践的なトピックまで幅広く解説する。講義の後半では、特定のスポーツ指導者を各自で選択してもらい、当該指導者がいかなる点で優れているのか、授業内容を踏まえたうえで考察を行い、他の学生に対して説明することを求める。

到達目標

実際に活躍しているスポーツ指導者について、何が優れているのかコーチングに関する諸理論から他者に説明することができるようになる。コーチングに関連する知識を自らの実践活動に活かすことができるようになる。

提出課題

- 講義終了後に提示する課題の提出
- プレゼンテーションに関連する資料の提出

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

・毎週、講義内容に関する感想・質問を提出してもらう。提出された課題・質問のうち、特に全体で共有した方が望ましい内容については、復習を兼ねて翌週の冒頭5分程度を確保して紹介・解説をする。

・第13回目・第14回目を実施するプレゼンテーションについては、発表終了後に担当教員から即座にフィードバックをする。また、学生間でプレゼンテーションの出来について相互評価を実施する。学生間の相互評価については担当教員が集約したうえで各学生にフィードバックする。

評価の基準

- 第14回目～第16回目に提示する課題（30%）
 - 第13回目・第14回目のプレゼンテーション（35%）
 - 第15回目の理解度確認テスト（35%）
- 単位認定にあたって、理解度確認テストの受験とプレゼンテーションへの参加は必須である。

履修にあたっての注意・助言他

- 原則として毎週、課題の提出を求める。
- 講義中にコーチング場面における反論理的行為(暴力、暴言、セクシュアル・ハラスメントなど)に関わる事例を取り上げることがある。このような事例を知りたくない学生については事前に相談すること。
- 第13回目と第14回目のプレゼンテーションは原則1名ずつの発表を予定している。ただし、受講者数によっては2名1組などグループでの発表に切り替える可能性がある。
- プレゼンテーションにある作業を自己完結できない受講生については補講に参加することを求める。
- 基礎能力(パソコンの基礎)や情報処理人間などの講義を通じて、ある程度パソコンの基本的な操作(ファイルの保存方法など)やOfficeソフトの操作に慣れておくことが望ましい。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.グッドコーチになるためのココロエ.	平野裕一・土屋裕睦・荒井弘和(共編)	培風館	2,400	9784563052522
.運動学習とパフォーマンス.	シュミット, R.A. 調枝孝治(監訳)	大修館書店	5,280	9784469282803

その他

なし

授業計画

- 01 授業ガイダンス、イントロダクション：コーチングの理念・哲学
 <予習内容>
 ・シラバスならびにキャンパスカrosseに提示する講義資料を閲覧したうえで、自分が興味を持った内容についてまとめておくこと(120分程度)。
 <復習内容>
 ・講義中のメモを整理するなど講義内容を再確認しておくこと。また、講義内容に関連する事例を新聞記事データベースなどで調べて理解を深めること(120分程度)。
- 02 コーチング(1)：トレーニングの原理・原則、トレーニングの思考・行動サイクル
 <予習内容>
 ・講義内容を前週に予告するので関連図書を通じて予習すること(120分程度)。
 <復習内容>
 ・講義中のメモを整理するなど講義内容を再確認しておくこと。また、講義内容に関連する事例を新聞記事データベースなどで調べて理解を深めること(120分程度)。
- 03 コーチング(2)：発育発達に合わせたコーチング、女性アスリートへのコーチング
 <予習内容>
 ・講義内容を前週に予告するので関連図書を通じて予習すること(120分程度)。
 <復習内容>
 ・講義中のメモを整理するなど講義内容を再確認しておくこと。また、講義内容に関連する事例を新聞記事データベースなどで調べて理解を深めること(120分程度)。
- 04 コーチング(3)：観察学習、データと言語能力の重要性
 <予習内容>
 ・講義内容を前週に予告するので関連図書を通じて予習すること(120分程度)。
 <復習内容>
 ・講義中のメモを整理するなど講義内容を再確認しておくこと。また、講義内容に関連する事例を新聞記事データベースなどで調べて理解を深めること(120分程度)。
- 05 コーチング(4)：効果的なフィードバック方法
 <予習内容>
 ・講義内容を前週に予告するので関連図書を通じて予習すること(120分程度)。
 <復習内容>
 ・講義中のメモを整理するなど講義内容を再確認しておくこと。また、講義内容に関連する事例を新聞記事データベースなどで調べて理解を深めること(120分程度)。
- 06 アスリートの健康(1)：アスリートの体質
 <予習内容>
 ・講義内容を前週に予告するので関連図書を通じて予習すること(120分程度)。
 <復習内容>
 ・講義中のメモを整理するなど講義内容を再確認しておくこと。また、講義内容に関連する事例を新聞記事データベースなどで調べて理解を深めること(120分程度)。
- 07 アスリートの健康(2)：アンチ・ドーピング
 <予習内容>
 ・講義内容を前週に予告するので関連図書を通じて予習すること(120分程度)。
 <復習内容>
 ・講義中のメモを整理するなど講義内容を再確認しておくこと。また、講義内容に関連する事例を新聞記事データベースなどで調べて理解を深めること(120分程度)。
- 08 コーチングにおける倫理(1)：倫理的なコーチングについて考える
 <予習内容>
 ・講義内容を前週に予告するので関連図書を通じて予習すること(120分程度)。
 <復習内容>
 ・講義中のメモを整理するなど講義内容を再確認しておくこと。また、講義内容に関連する事例を新聞記事データベースなどで調べて理解を深めること(120分程度)。
- 09 コーチングにおける倫理(2)：スポーツ指導者による体罰問題
 <予習内容>
 ・講義内容を前週に予告するので関連図書を通じて予習すること(120分程度)。
 <復習内容>
 ・講義中のメモを整理するなど講義内容を再確認しておくこと。また、講義内容に関連する事例を新聞記事データベースなどで調べて理解を深めること(120分程度)。
- 10 スポーツ指導者のセルフコントロール、選手とのコミュニケーション
 <予習内容>
 ・講義内容を前週に予告するので関連図書を通じて予習すること(120分程度)。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

・コーチングに関わる諸理論を理解するだけでなく、実際に学習者(子供、部下、選手など)を効果的に指導する方法を理解しておくことは、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業する際に有用な知識となる。また、コーチングに関する知識を体系的に学ぶことで、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション能力やリーダーシップ、マネジメント力を獲得できる。そのほか、授業後半に実施するプレゼンテーションの経験を通じて、プレゼンテーション能力の一面を身に着けることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- Googleフォームを使って課題の提示や理解度確認テストを行う。
- 講義中に紹介した内容について、学生一人ひとりからクリッカーを使って質問や感想を求めることがある。

実務経験の有無及び活用

なし

備考

- 授業の内容や進め方は社会情勢や受講生の理解度に応じて変更する可能性がある。
- 遅刻や欠席については厳格に取り扱う。特別な事情が無い限り、出席確認終了後の入室は全て遅刻として扱う。また30分が経過してからの入室は欠席とする。
- 教室内で授業を受けていないにもかかわらず出席しているかのような偽装行為を行った場合は単位を認めないなど厳正に処分する。
- 欠席については履修表明に記載の通り対応する。必要な事情が無い場合は受け取ることができないので事前によく確認してから提出すること。
- 講義期間中に受講に関わるトラブルが発生した場合は担当教員までメールにて連絡すること。その際、学籍番号・氏名・受講している講義名・トラブルの詳細を必ず本文中に記載して連絡すること。記載がない場合は回答しないことがある。